

瓜生氏

日本國畫

北陸道

五

報

291

12

5

百五

2

1

5

291
12
5

北陸道之図



横浜国立大学附属図書館



06402176

北新道之図



瓜生氏日本國盡卷五

北陸道七箇國

南東より东山道山又山

を脊より負ひ西よりやち

少海の初よりあき浪

乃面山陰道より引續き

長け細長く延びたる
中

方丹は隣り丹波地を。
南を受け東に近江と
越の前は國持は三方と

山おほく乾き一面濱つ
き入る心浦を二つと
中ふ名あるも若狭浦
浦に於て小濱に於て
内は一郡令一國三郡人
口々大凡七千八百八十余気候

陰氣いんき、濕しつおほく、北きたは
風俗ふうふくも、所ところ手てなわ、土地ちどふ
名なと得え、産物さんぶつを塗物ぬぶつ、石いし
灰はい、鯿うれ小鯛こたいさく、北きたは官轄くわんくわつハ
全國ぜんこくを併あはて隣國りんこく越前えぜんの
敦賀縣とんがけんの支配しはいなわ

二、越前えぜんも東南とうなん小近江こおう
多濃たの死い海地かいちと接せつ、民たみの
方加賀かがの國くに西にしも北海ひがひを
高たかく四方しやう山やま々々包つつみ、
只乾ただいぬのみ一方いつもわづの、
開ひらく土地ちど形勢けいせい平原へいげん廣ひろく

地味厚く山々清流
 水もく國中より通たり
 北に西より濱あり
 山の間より敦賀郡海濱
 長く八つ山あり舟は碇
 泊場敦賀港にあり

く仲哀帝の持統
 行幸のあり行宮
 神威もき氣比の宮
 建つる物原に敦賀縣
 や隣國に若狭一國
 山の今立南條敦賀

三つの郡を支配せしむ。山
々々越知山日水岳加賀
と跨がる白山も是を
國に境あり川も白鬼女
足羽川九頭龍川の三つの河
一つ今も海へ入る所の

川口も三國あり。これ港
も巽の方舟も川を瀬
足羽の川中へ取らるけ
し市街も福井やしく南
残り五郡をも支配の足
羽縣廳を立役する所

日本國志卷五
たつと九頭龍川を早瀬川
掛たる橋を舟のそとさそ
名所を夕月夜露此
屋をまゐる味間野や栗田
都々地を継体の帝の心
まゝ御位に即せ玉ふぬ

地此以前宮居のあり
所なる一國中に人口を
三十五萬四千余氣候を
寒く雪深く人々を軽蔑
邪智多くさそと教賀の
一郡を風俗言語をいふ

日本書紀卷五
多きなり。近江の國よりよく
似たり。此は産物より奉書
紙鳥の子紙や雲母や奉
書細く墨流石谷切石
や丹尊鱒是ハ類々佳
品なり

才三加賀より越前の北東
より濱つとも。南より飛騨と
山界雲より峰ゆゑ白山
越前花原と越中より跨
るる峯より消果る時
え何れぬ白妙の深雪つ

えきまゐるも根なる東
越中之ととて又山お月
北に少く能や隣
て國成の海濱まて魚塩
乃地越前界り蓮の浦
落入る川を管生川北

水上の山中やまた山代
温泉湯あは客北
入る集ふ安宅の川北川
只そ深く八咫の江なる
北に北のて手取川當
必ゆけ大川をみ

白山しろくより落おる水みづ。其それ
川が々が本もと吉よし々が。山やま國くに一ひと國くに
管轄くわんくわつ乃すなは石川縣廳いしかわのこ安海あみ
所ところ。亦また乃すなはカ川が淺野川あさの川がの
間あひに金澤かなざわの市街いちがいと地ちと我われたえ
才さい一ひとれ。如ごとく昌地しやうちと我われたえ

ある。淺野川あさのに川下がわ冬ふゆ。
内うち高たか乃すなはの河が々が。川が々が
乃すなは水落みづお々が。湖うみと々がある
其それ小こ々が。さ々が々が。能よ。
登のぼの界さかい々々が。當國たうこく一ひと國くに
人ひと々々が。一十九いちじゅう乃すなは六千餘ろくせんよ。

地^ち冷^{ひや}く風^{ふう}つく越^こえ
 雪^{ゆき}落^おく本^{もと}を守^{まも}る
 民俗^{みんぞく}温^{あつ}和^わく求^{もと}む心^{こころ}なま
 風^{ふう}ありさう産^う物^{ぶつ}を撰^{せん}
 糸^{いと}也^や羽^う二^{ふた}重^{じゆう}加^か賀^が結^{むす}杉^{しん}糸^{いと}

紙^し奉^{ほう}書^{しよ}紙^しや菅^{かん}笠^{がさ}也^や白^{はく}山^{さん}
 硫^{りゅう}黄^{わう}浅^{せん}野^や鮓^す

第^{だい}四^し能^の登^と之^し一^{いつ}國^{こく}加^か
 賀^が越^こ中^{ちゆう}の^の間^{かん}北^{きた}ふさ
 出^で大^{だい}岬^{さき}通^とる三^{さん}方^{ほう}み
 濱^{はま}多^た國^{こく}中^{ちゆう}山^{さん}あり川^{かわ}河^がと

極に狭き土地なり。東
に海灣あり。廣く。其中
程に半嶋あり。地峡僅
く相通す。又南手に
海岸あり。七尾と稱す。
一港あり。當國一國地なり。

す。城中の國射水あり。
郡を加へ支配する。七尾
縣廳を立置ける。北なる
端に珠洲岬。岬を廻る
西の方沖に一面能登れ
海。長閑なり。所々其の日の

浪間に見ゆる七島也。
 能登の島山神の浦親の
 湊を舟出濱を傳ふ
 て南向小嶋の間を過る
 りを阿武屋福浦
 南を今濱一の

宮。此れ間を北江なる
 此一島の人口一十六万七千
 余。土地冷し風烈し人
 氣を狭く少し我々の
 産物も織絹布。和紙塗
 物素類也。刺鯨能正烏賊

黒瀆。

才五の國より越中より西
加賀能や南に海東より
信濃北より越後や
隣より小海國に界を
みなる山岳西より石動三

國山久利伽羅岳や源氏
峯。黒坂山より礪波山南
水無國見坂東より朝日。
佛岳剣淨土の間より
たなより立山や地火の
燃立つ火山なり。川を

彈より里落ち東に逆巻波
の神通川國の央を貫く
流く入る布施の海
川口は富山に新川縣の
廳を置き其に管轄を
置け礪波や婦員は新川

の二郡なるを射水なれ
西は妙の二郡能登乃七
尾の支配なり神通川を
中お置き川ふけり舟
橋の西も東も土地の
あり廣くあるを

蝴蝶の羽根を削きたる。形
りさうもしく似たり。雲
る羽根り中田川。また川
に隣國に飛彈より流る
来る水。北に河口の濱。字小
る古國府湊。今いなる。

名のみ有儀の名湖に海。
東る布施川。いは川北の
水源。立山。熱水。雪と
解。流。み。なる。所。
早瀬。少。橋。と。棧。橋。相。本。
そ。北。北。の方。堺。川。城。後。

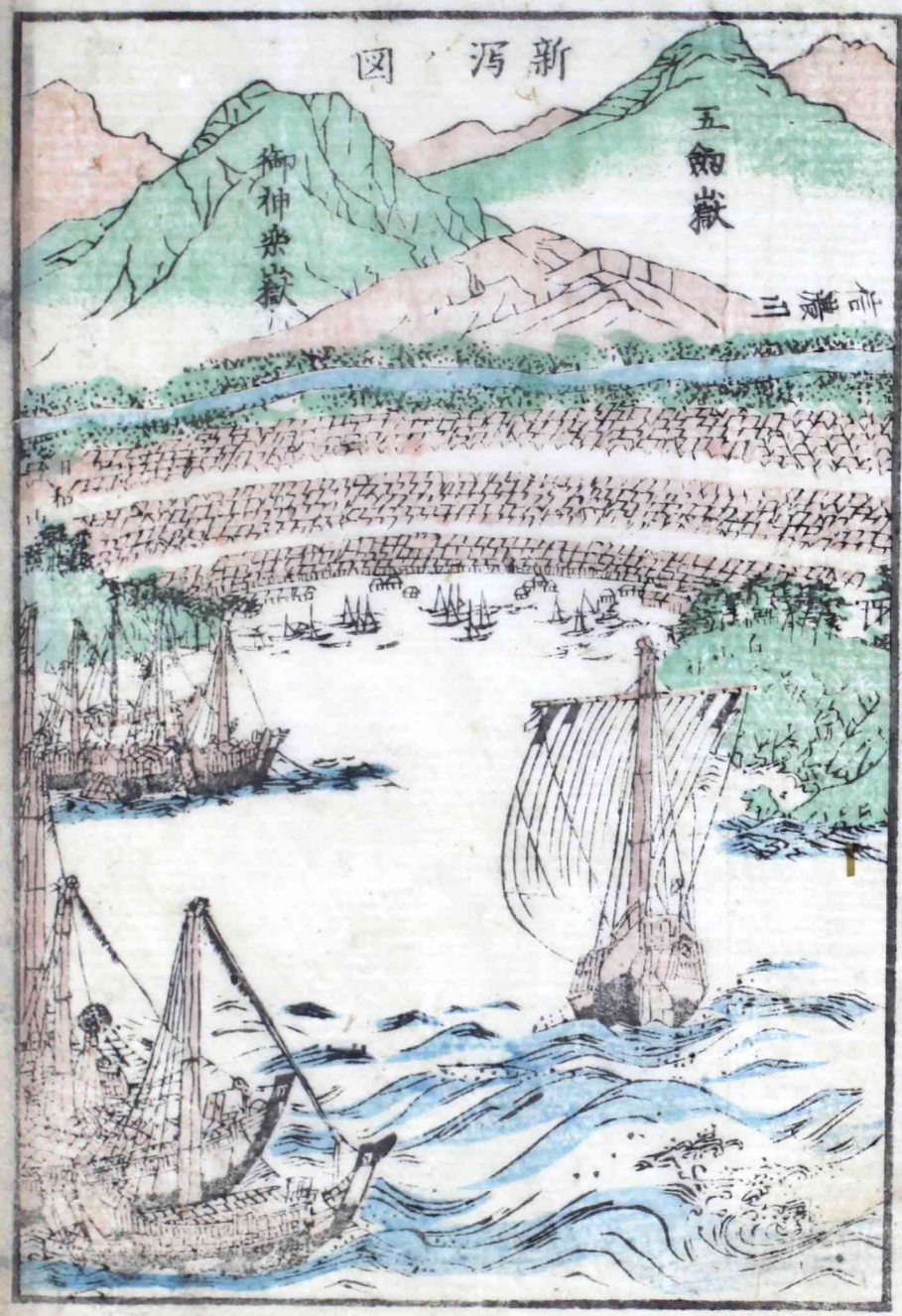
の國と此界なり。東の羽根
より西の方。能登と此間。大
湾と。總名富山乃海や
いふ。二國と。く人々。三十
四萬五千余。風土を寒く
雪おほく。五穀實る。く

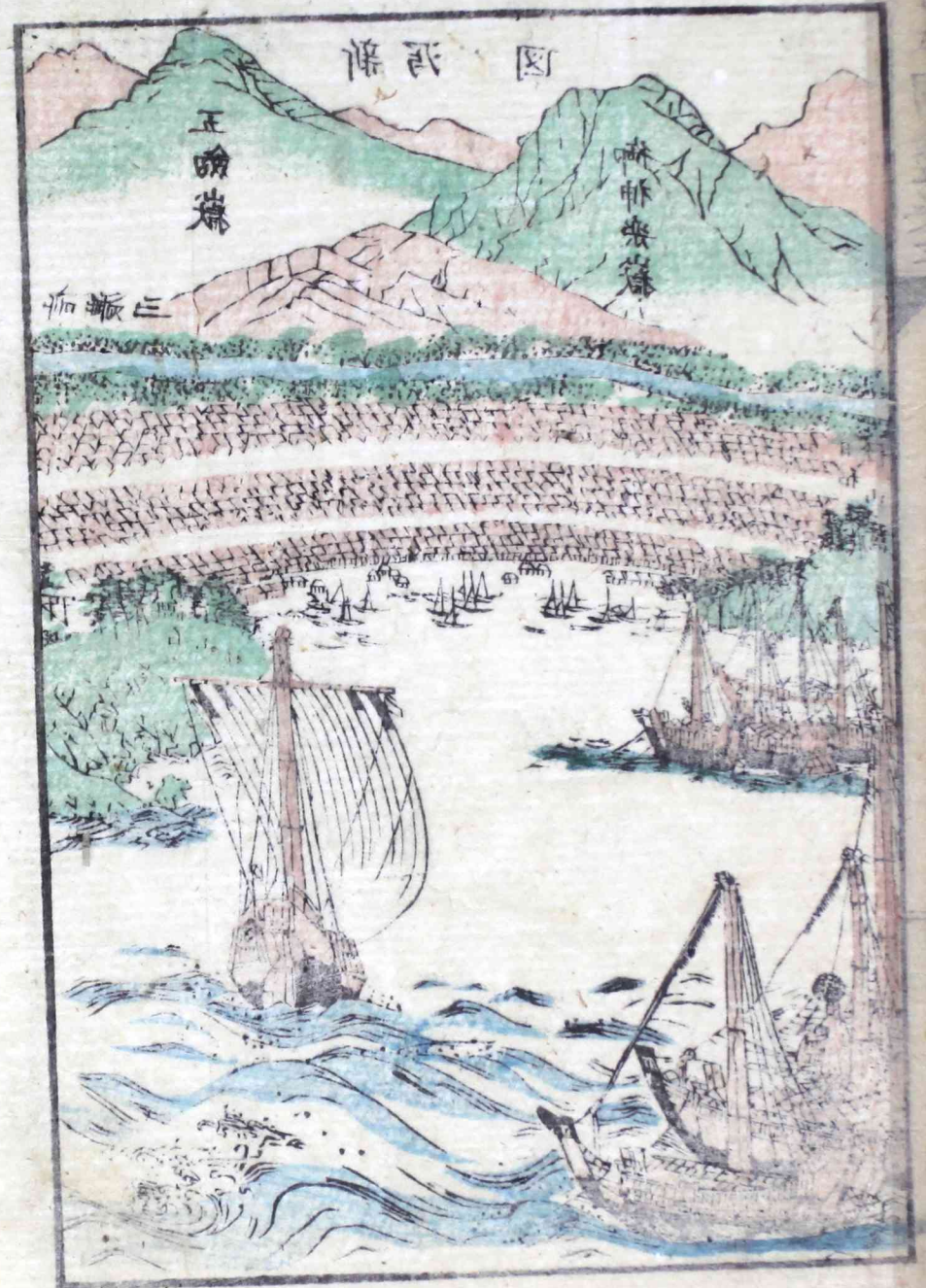
熟と。山と。漆と。海と。魚人
氣と。智あり。勇あり。陰
氣と。く。少く。倭おほく。持の
産物と。八講布。白川糸。や絹
物や。鹽。硝。黃。連。及。菟。丹。龜
谷。鉛。銅。熊。足。

才六番より越後のふ山陸
 乃家大國越中地より
 ま細く長く良延び止り
 羽前より乾より一國岸
 う浪浪れあなうさ佐
 渡の南東より信濃地と

上野岩代より山界。山より
 一面より國內山岳野々大
 河小川数けく越中界よ
 橋立山里姫山や外波山山
 のふなる海岸より多岐の難所
 親不知より越中界より駒五過

まゝぐ青^{あそ}海^み川の口。此れ東
 なる^{ひめ}姫川^みより。信濃^{しん}のふより流
 る川^が。此れ東より。名字^{なな}岳^{ぼく}。信
 濃^{しん}の界^がの焼^や山^け。今^{いま}四時^よより火^ひ
 烟^{えん}れ終^はる。此れ妙^{めう}高^{かう}山^{さん}と
 火山^{くわん}あり。此れ外^{ぐわい}赤^せ倉^{そう}不動^{ふどう}山^{さん}





信濃の野尻沼の水は流る
 ぬく美川乃。此れ川筋を
 信濃道下り川口直江浦。
 浦より西へも米山の東へ
 八石黒姫山此れ少の方海
 濱。立ちしむ所を相崎

南七郡其内中の南乃
 五郡を支配する。柏崎縣
 多山。八石山の南なる天
 山や麦岳曰高々と山
 間。信濃の方より流る
 川を所謂信濃川。三大河

中の其内一つ夫より少
 流る。大数川加ふる
 海へ落ち込む川口。外
 人の交易場。是より新
 の大港河舟の事。海舟
 日夜出入。中絶なく。市街

乃繁榮夥一落新瀉
新瀉當國少北二郡
蒲原岩船を支配せり其
良一島屋沼阿賀の流や
福崎沼水上遠く岩代北
國より落る金津川三國

峠も當ふ。佐濃上野
三國の間ありある東へ
往來も繁き山の道下海
道とも是ぞう。其も
必々大ふく火山乃
多々ある。爰より燐の

出づ。火井とてる井戸ん
 河。又臭水に油とて地
 沸出る油あり。即ち世
 へ石炭油用おと照と夜
 の閣造化の妙工とてつ
 其人は大都とて一百九万

二千余。氣候を冷雪つ
 人。人氣を極めて員抑み
 強きふ道。半象あり。其
 産物も絹布類晒縮や蠟
 漆臭水油鉛あり。
 才七佐渡も越後より北

當りて十八里。能登の珠
沙より三千里風濤の
北の海に沖に立たる
島は周廻凡五千余里。
東と西と廣く中へ
南と北の方。双方海灣入る。

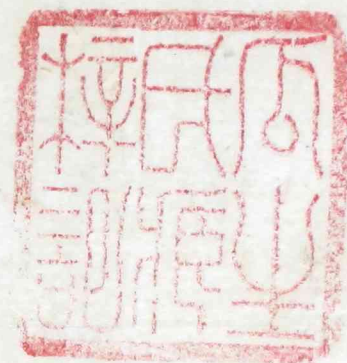
狭くたゞるる方。内は
開きたる平地あり。こ
の湾より溪河にききふ
町あり。湖あり。南の湾より
東西に重なる山岳
あり。南東に清水あり。

集あまの入る國府川はを
所櫛ひて西廻るを
相川や當國に於昌地
全國三郡管轄の相川
縣廳よりあり山は地
名を湯より東より金

山西より金北檀特上松
山金北山の西南相川より
北東鑛山あり堀出を
品より世よりつた佐波の土
金銀の量今もなるは昔ふ
かよりしを夥しきも此より

美文の昔順德天皇の處
臣北條義時より遷され玉
ひし所より今ん東より
河内國一國人百九十余
土地草木他より移せ
五穀牛馬もいと多し風

土多雪と風烈し人
狭く頑固なり其産物
金と銀小鯛弦原細辛
と初也



瓜生氏日本國畫卷五終

6486 號
東京府立美術館
藏書

瓜生三寅著

第三大區三ノ小區
四番町壹番地

明治五年壬申十月新雕

東京芝大神宮前

名山閣

和泉屋吉兵衛

横浜国立大学附属図書館



06402176